

市場価格

ドル建て ドル/TOZ

Platinum	Price	Date
Open	1188.00	2021/3/1
High	1230.00	2021/3/1
Low	1112.00	2021/3/5
Close	1134.00	2021/3/5

円建て 円/グラム

Platinum	Price	Date
Open	4047.00	2021/3/1
High	4216.00	2021/3/1
Low	3856.00	2021/3/5
Close	3951.00	2021/3/5

ドル建て ドル/TOZ

Palladium	Price	Date
Open	2323.00	2021/3/1
High	2393.00	2021/3/2
Low	2323.00	2021/3/1
Close	2341.00	2021/3/5

円建て 円/グラム

Palladium	Price	Date
Open	7949.00	2021/3/1
High	8262.00	2021/3/5
Low	7949.00	2021/3/1
Close	8145.00	2021/3/5



ニュースエクスプレス

南アPGM 3大生産者の生産拡大計画も供給不足解消には至らず

南アフリカの3大PGM生産者らは先月年間120万オンスに及ぶ生産拡大計画を発表したが、市場の供給不足を補うには足りないとみられている。「供給過多になるリスクは非常に少ない。」と語るのはインプラッツCEOのNico Mullerで、「実際のところリスクは逆で、我々生産者は将来の需要増に対応する準備があることを世界に示さなければならない。パラジウム、ロジウム、そしてプラチナも不足傾向が増大している。」

アムプラッツCEOのNatascha Viljoenによると、同社が予定している年間30万オンスから60万オンスの生産拡大計画は、「議論されたが却下され」、2022年までパラジウム、プラチナ、ロジウムで供給不足となる予測。PGM供給不足の背景には水素技術と電気自動車の燃料電池の需要増大がある。アムプラッツのマーケット開発を率いるBenny Oeyenは、決算発表の場で「ついに水素エネルギーの時代が到来した。これからも水素エネルギー開発は増え続け、エネルギーと運輸の脱炭素化に大きな役割を果たすだろう」と語った。

Sibanye-Stillwater社CEOのNeal Fronemanは、PGM需要の拡大は今まであまり注目を浴びてこなかったイリジウムとルテニウムの需要を含め化学産業全体に及ぶだろうと語る。同社ではPGM25万オンスの生産増加となるマリカナ鉱山（買収前はロンミン社所有）の二つの再開発計画が承認されている。

<https://www.spglobal.com/platts/en/market-insights/latest-news/metals/022521-feature-rhodium-surges-past-25000oz-on-tight-supply-strong-demand>

トヨタ社長、水素活用実証に意欲 福島施設を視察

トヨタ自動車の豊田章男社長は5日、福島県浪江町にある世界最大規模の水素製造拠点「福島水素エネルギー研究フィールド」を視察した。豊田氏は「水素の『使い手』として、どう運び、どう使うかの実証に参加させていただきたい」と述べ、同県内での実証事業を視野に、県や町と協力していく意欲を示した。

菅政権が温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする「カーボンニュートラル」を2050年までに実現する目標を掲げたことで、水素は利用拡大の機運が高まっている。豊田氏は「50年までの道のりとして、トライアル（試み）が必要だ」と指摘した。

<https://www.topics.or.jp/articles/-/495514>

トヨタ、水素燃料電池を外販 鉄道や船舶に転用

トヨタ自動車は2月26日、水素をエネルギー源とする燃料電池システムの外販を2021年春に始めると発表した。20年に発売した新型の燃料電池車（FCV）「ミライ」向けに開発した水素関連部品をシステム化して幅広い利用を見込む。トラックやバスに加えて鉄道や船舶、発電機での燃料電池の利用を増やし、インフラ整備や水素価格の引き下げにつなげる。

トヨタは15年にはFCV関連特許を無償開放している。20年末までを期限としていたが、期限を延長することを決めている。トヨタの前田昌彦CTO（最高技術責任者）は初代ミライの発売を通して「思いのほか（水素システムの）乗用車以外への転用ニーズが多いと分かった」と話している。個々の水素関連部品をシステム化して利用しやすくすることで、中長期の普及が期待される水素エネルギーの利活用を広げる。

トヨタ自動車グループの豊田自動織機も26日、小型の燃料電池システムを開発したと発表した。FCスタックやスタックに酸素を供給する「エアコンプレッサー」などを一体化した。出力は8キロワットで定置式や可搬式発電機での採用を見込む。2年以内をめどに発売する。

<https://www.nikkei.com/article/DGKKZ069500320W1A220C2FFN000/>

Translated by Kazuko Osawa, JBMA

WPIC直近の活動

- WPICは2021年3月10日ロンドン時間午後2時（日本時間夜11時）より2020年第四四半期のクォーターレポートを出す予定。
- プラチナ触媒が欠かせないプロトン交換膜(PEM) 水素燃料電池は運輸業界、特に大型車両と商業車両でゼロエミッションのパワートレインとして需要が増えている。詳しくはプラチナ豆知識「予備電源」（2021年2月18日）をご覧ください。<https://platinuminvestment.com/about/60-seconds-in-platinum/2021/02/18>



@wpicjapan

免責事項：本資料は情報提供に過ぎず、WPICの投資提案を意図するものではなく、また、そのように解釈されるべきでもありません。